

第1回長寿医療センター国際シンポジウム
2005年11月3日(木)9:00~18:00
あいち健康プラザ 1Fサイエンスアター
主催: 国立長寿医療センター



「アルツハイマー病治療薬の開発」
基礎研究からトランスレーショナルリサーチへ

PROGRAM

- 9:00 - 9:20 開会の挨拶 尾辻秀久 厚生労働大臣(予定)、大島伸一 国立長寿医療センター総長、小林秀資 長寿科学振興財団理事長
- 9:20 - 9:40 Overview: Therapeutic strategies for Alzheimer's disease 座長 井原康夫 田平 武(国立長寿医療センター研究所)
- Session I. A β -targeted therapeutic strategies 座長 西道隆臣
- 9:40-10:15 Inhibiting the A β pathway using genetic and protein folding targets Peter St. George-Hyslop(University of Toronto, Canada)
- 10:15-10:50 Targeting seed A β as a novel therapeutic strategy for Alzheimer's disease 柳澤勝彦(国立長寿医療センター研究所)
- 10:50-11:25 BACE inhibitors and amyloid β peptide studies targeting Alzheimer's disease 座長 柳澤勝彦 木曾良明(京都薬科大学)
- 11:25-12:00 A β metabolism and Alzheimer's disease 西道隆臣(理化学研究所脳科学総合研究センター)
- 12:00-13:15 昼食
- Session II. A β vaccine 座長 田平 武
- 13:15-13:50 Mucosal immunotherapy for Alzheimer's disease by viral vectors 原 英夫、田平 武(国立長寿医療センター研究所)
- 13:50-14:25 Development of a vaccine against β -amyloid for the treatment of Alzheimer's disease Roger M. Nitsch (University of Zurich, Switzerland)
- 14:25-15:00 A β immunotherapy and its effect on tau pathology and cognition Frank LaFerla(University of California, USA)
- 15:00-15:25 休憩(コーヒープレーク)
- Session III. Tau-targeted therapeutic strategies 座長 武田雅俊
- 15:25-16:00 Inhibition of tau filament formation by phenothiazines, polyphenols and porphyrins 長谷川成人(東京都精神医学総合研究所)
- 16:00-16:35 Tau aggregation and tau aggregation inhibitors Eckhard Mandelkow(Max-Planck-Unit for Structural Molecular Biology, Germany)
- 16:35-17:10 Diagnostic applications of a novel protein unfolding chaperone (Unfoldin) in protein aggregation disorders 金子清俊(東京医科大学)
- Session IV. Translational Research 座長 杉本八郎
- 17:10-17:50 Strategies for the success of TR - Chance and obstacles - 福島雅典(京都大学、先端医療振興財団)
TR to investigator-initiated clinical trials -Lessons from cancer & other TR projects at Translational Research Informatics Center 永井洋士(先端医療振興財団)
- 17:50-18:00 閉会の挨拶 福島雅典 京都大学医学部探索医療センター教授
(Session IVの発表、質疑は日本語で行います。)

The 1st International Symposium
on Geriatrics and Gerontology
2005.11.3. 9:00-18:00
National Center for Geriatrics and Gerontology



申込締切 平成17年9月30日
参加費無料 定員240名

■お申込み・お問合せ:
国立長寿医療センター政策医療企画課
〒474-8511愛知県大府市森岡町源吾36-3
TEL:0562-46-2311(内線2504)
FAX:0562-48-2373

主催: 国立長寿医療センター(厚生労働省)
共催: (財)長寿科学振興財団、(財)先端医療振興財団
後援: 日本医師会、日本老年医学会、日本痴呆学会、愛知県医師会、愛知県、大府市、東浦町、名古屋大学、名古屋市立大学、藤田保健衛生大学、愛知医科大学、愛知学院大学、中日新聞社、朝日新聞社、毎日新聞中部支社、読売新聞社、日本経済新聞社名古屋支社、NHK名古屋放送局、中部日本放送、東海テレビ放送、東海ラジオ放送、メ〜テレ、中京テレビ放送、テレビ愛知、愛知国際放送(順不同・一部申請中)

第1回長寿医療センター国際シンポジウムのご案内

この度、長寿医療に関わる様々な研究に関して、国内外の研究者並びに有識者を招聘し、その役割と可能性を議論追求し「健康と長寿」に関する研究開発の現状と情報発信拠点となることを希求しつつ、国民の健康と福祉の増進に寄与し、明るく活力ある長寿社会の推進を目指し、第1回長寿医療センター国際シンポジウムを開催することといたしました。

今回別紙プログラムのとおり、第1回シンポジウムでは「アルツハイマー病治療薬の開発ー基礎研究からトランスレーショナルリサーチへー」をテーマとしてアルツハイマー病治療薬開発を目指した研究を精力的に推進している国内外の研究者を講演者として招いております。また、セッションIVでは我が国のトランスレーショナルリサーチ研究の現状と課題を取り上げました。

本シンポジウムに参加されることでアルツハイマー病の予防法治療法の開発応用が近いことが実感されることを期待します。

ご多忙のことと存じますが、万障お繰り合わせのうえ関係者多数のご参加をいただきますようご案内申し上げます。

開催日：平成17年11月3日（木）9:00～18:00

会場：あいち健康プラザ (<http://www.ahv.pref.aichi.jp/>)
1F サイエンスシアター

主催：国立長寿医療センター

共催：（財）長寿科学振興財団、（財）先端医療振興財団

参加費：無料（定員240名）

*参加希望の方は、別添申込書により事前にFAXにてお申込み下さい。

（申込み締切日は平成17年9月30日）

参加申込み・問い合わせ先

国立長寿医療センター 国際シンポジウム実行委員会 事務局 政策医療企画課

住所 〒474-8511 愛知県大府市森岡町源吾36-3

TEL 0562-46-2311（内線2504）

FAX 0562-48-2373

The 1st International Symposium on Geriatrics and Gerontology

第1回長寿医療センター国際シンポジウム

PROGRAM

- 9:00 - 9:20 **開会の挨拶** 尾辻秀久 厚生労働大臣(予定)、大島伸一 国立長寿医療センター総長、
小林秀資 長寿科学振興財団理事長
- 9:20 - 9:40 **Overview: Therapeutic strategies for Alzheimer's disease** 座長 井原康夫
田平 武(国立長寿医療センター研究所)
- **Session I . A β -targeted therapeutic strategies** 座長 西道隆臣
- 9:40-10:15 **Inhibiting the A β pathway using genetic and protein folding targets**
Peter St. George-Hyslop (University of Toronto, Canada)
- 10:15-10:50 **Targeting seed A β as a novel therapeutic strategy for Alzheimer's disease**
柳澤勝彦(国立長寿医療センター研究所)
- 10:50-11:25 **BACE inhibitors and amyloid β peptide studies targeting Alzheimer's disease** 座長 柳澤勝彦
木曾良明(京都薬科大学)
- 11:25-12:00 **A β metabolism and Alzheimer's disease**
西道隆臣(理化学研究所脳科学総合研究センター)
- 12:00-13:15 **昼食**
- **Session II . A β vaccine** 座長 田平 武
- 13:15-13:50 **Mucosal immunotherapy for Alzheimer's disease by viral vectors**
原 英夫、田平 武(国立長寿医療センター研究所)
- 13:50-14:25 **Development of a vaccine against β -amyloid for the treatment of Alzheimer's disease**
Roger M. Nitsch (University of Zurich, Switzerland)
- 14:25-15:00 **A β immunotherapy and its effect on tau pathology and cognition**
Frank LaFerla (University of California, USA)
- 15:00-15:25 **休憩(コーヒーブレイク)**
- **Session III. Tau-targeted therapeutic strategies** 座長 武田雅俊
- 15:25-16:00 **Inhibition of tau filament formation by phenothiazines, polyphenols and porphyrins**
長谷川成人(東京都精神医学総合研究所)
- 16:00-16:35 **Tau aggregation and tau aggregation inhibitors**
Eckhard Mandelkow (Max-Planck-Unit for Structural Molecular Biology, Germany)
- 16:35-17:10 **Diagnostic applications of a novel protein unfolding chaperone (Unfoldin)
in protein aggregation disorders**
金子清俊(東京医科大学)
- **Session IV. Translational Research** 座長 杉本八郎
- 17:10-17:50 **Strategies for the success of TR - Chance and obstacles -**
福島雅典(京都大学、先端医療振興財団)
**TR to investigator-initiated clinical trials -Lessons from cancer & other TR projects at
Translational Research Informatics Center**
永井洋士(先端医療振興財団)
- 17:50-18:00 **閉会の挨拶** 福島雅典 京都大学医学部探索医療センター教授
(Session IVの発表、質疑は日本語で行います。)

第1回長寿医療センター国際シンポジウム終わる

第1回長寿医療センター国際シンポジウム「アルツハイマー病治療薬の開発：基礎研究からトランスレーショナルリサーチへ」が、2005年11月3日、あいち健康プラザにおいて開催され、200人を超える参加のもと盛会裡に終わった。長寿医療センター国際シンポジウムは、長寿医療に関わる様々な課題に関して国内外の研究者や有識者を招き、長寿医療研究の役割と可能性を議論し、研究開発の情報を発信することを目指している。また、このようなシンポジウムを主催することにより、活力のある長寿社会の構築に長寿医療センターは貢献したいと考えている。記念すべき第1回シンポジウムは、我国をはじめとした先進諸国が直面する大きな問題であるアルツハイマー病をテーマに取り上げ、アルツハイマー病治療薬の開発研究に焦点をあて、この領域で精力的に活躍する国内外の研究者を講演者に招いた。

開会にあたり厚生労働大臣(代理)ならびに長寿科学振興財団小林理事長が挨拶され、シンポジウム開催への期待が寄せられた。引き続き、長寿医療センター大島総長はシンポジウムに参加された全ての方々への感謝を表明し、高齢化社会の抱える様々な医学的諸問題に挑戦する長寿医療研究の重要性を述べた。

シンポジウムは長寿医療センター研究所田平所長によるアルツハイマー病治療薬開発のオーバービューにより開始の運びとなった。引き続き、アルツハイマー病発症機構のなかで中心的役割を果たすアミロイドβ蛋白(AB)の産生、重合、分解を標的とする新しい治療薬開発研究について講演が行われた。はじめに家族性アルツハイマー病原因遺伝子(プレセニリン)の発見者であり、アルツハイマー病研究の世界的リーダーの一人であるトロント大学(カナダ)のHslop教授が、アルツハイマー病免疫療法に関する動物実験ならびに小分子化合物によるAB重合阻害実験の最新研究成果を紹介した。次に、長寿医療センター研究所柳澤副所長はAB重合の開始点にあると考えられる種分子に焦点をあてた研究成果とそれを基にした抗種療法の可能性を紹介した。京都薬科大学の木曾教授はAB産生に直接関わる蛋白分解酵素(BACE)の活性阻害剤開発について最新のデータを紹介した。午前のセッションの最後に登壇した理化学研究所の西道博士は、脳内におけるAB分解酵素として同博士が発見したネプリライシンについて詳細に報告を行い、ネプリライシン活性を抑制することがアルツハイマー病治療に結びつく可能性を講演した。午後の最初のセッションは、既に臨床試験にまで展開され、多くの注目を集めているABワクチン療法について講演が行われた。はじめに長寿医療センター研究所血管性痴呆研究部原室長より、現在開発中の粘膜を介した新しいワクチン療法の研究成果が紹介された。従来の方法に比べ細胞性免疫を介した副作用の出現が抑制される可能性があり、今後の展開が期待された。チューリッヒ大学(スイス)のNitsch教授は、既に実施されたABワクチン療法の臨床経過について講演し、認知障害の改善や画像上の脳萎縮の変化が紹介された。カリフォルニア大学(アメリカ)のLaFerla教授はABワクチン療法の効果を神経細胞レベルで検討し、神経細胞内に観察されるABやABとならびアルツハイマー病発症機構のなかで重要な役割を果たすタウ蛋白の蓄積がどのように変化するかについて講演した。次ぎのセッションではタウ蛋白を標的とする治療薬開発研究について、東京都精神医学総合研究所の長谷川博士とマックスプランク研究所(ドイツ)のMandelkow博士が講演し、タウ蛋白が重合し異常な構造物を形成することの病的意義が議論され、同蛋白の重合を抑制する小分子化合物開発の研究成果が紹介された。東京医科大学の金子教授は、蛋白分子の異常構造を認識しこれを解きほぐす能力をもつ新たな分子を紹介し、この分子の活用がアルツハイマー病を含めた神経変性疾患の新たな診断法や治療法の開発に結びつく可能性を講演した。最後のセッションは、我国のトランスレーショナルリサーチの現状と課題について、京都大学(先端医療振興財団)の福島教授、先端医療振興財団の永井博士によって講演された。アルツハイマー病をはじめとした様々な難治性疾患の画期的な診断、予防、治療法開発の道を切り開く上で、トランスレーショナルリサーチの果たす役割は極めて大きい。その一方で、トランスレーショナルリサーチを効率面や安全面で最適化するためには、高い専門性をもった多職種構成

員によるチームワークが不可欠である。本シンポジウムでの議論が長寿医療センターをはじめとした多くの医療機関におけるトランスレーショナルリサーチ展開の一助となることを願いたい。

シンポジウムの閉会にあたり福島教授が挨拶され、アルツハイマー病研究にはこれまでのがん研究同様の重要性と臨床研究への展開の可能性があると述べられた。アルツハイマー病治療薬開発を目指した基礎研究の成果の幾つかが、近い将来、臨床研究へと展開されることを期待したい。最後に、本シンポジウムに国内外から参加された多くの研究者、共催にご尽力頂いた長寿科学振興財団ならびに先端医療振興財団の関係者の方々、そして開催運営を直接お手伝い下さった多くの方々に心から感謝を申し上げたい。(次回は「骨と老化」をテーマに2006年11月に開催予定である)

(文責:国立長寿医療センター研究所副所長 柳澤勝彦)

